

家も僕も冗談言う余裕ない

四月一日 水曜日

家も僕も冗談言う余裕ない

起床八時半。

それでも、まだ眠い。
起きたらすぐに、自分の荷物を整理する。

バスの定期代四百七十円ぎりぎりの
こずかいが残っているのを確かめて
そのお金をポケットに入れて、
制服をも整える。

今日で練習終わり、じゃなかった、合宿が終わりだ。
ひさしぶりに家に帰ると思うと、何となく、たのしい。

空が曇っている。
雨がぼつぼつと降ったりやんだり、
それでも練習には差し支えない。

合宿、最後の今日の練習は、夕べ、皆が「学習」していた
フォーメーションの基本型の練習が中心だった。
キーパーにはあまり関係ないと思い、
僕は真面目に聞いていなかったが、キーパーも、
知っていた方がよいと言うことで、バックに入ったりした。

一見、皆は楽しそうに見えるが、
僕には、受け身で、面白くない練習だった。
腹がへりだして、時間を見ると、なんと、
一時四十分で、その後、すぐに終わった。